

99年度 原子核三者若手 夏の学校 三者総会議案書

99/7/24

98年度原子核パート 準備校 (北海道大学、大阪市立大学)

決算報告

98年度 原子核パート準備校が追加申請した予算の決算を以下に示します。

収入の内訳

項目	金額 (円)
予算追加分	12,699
合計	12,699

支出の内訳

項目	内容	金額 (円)
印刷費	研究会用予稿集の印刷 (追加分)	8,560
テープ代	講義の録音 (追加分)	669
郵便代	講師の先生方との諸連絡 (案内状、礼状、返信用封筒代等)	2,470
投稿費	原子核研究編集部への原稿郵送費	1,000
合計		12,699

以上、追加予算の決算について、ご承認をお願い致します。

原子核パート センター (都立大)

1 '99年度原子核パート センター校決算報告

今年度センター校の決算の内訳は以下のようになっています。

項目	金額 (円)	備考
収入	2,000	—
支出	1,421	テープ代及び通信 (郵送) 費

従って、差額の 579 円から繰越金振込手数料を引いた金額を三者センター校に返還します。

'99 年度原子核パートセンター校都立大代表 橘川
(ykitsu@comp.metro-u.ac.jp)

高エネルギーパート 準備校 (京都大学)

報告と提案

三者名簿校 (名古屋大)

名簿校の活動報告

1. yonupa-ml、yonupa-homepage の管理 (鶴飼 和昌)
2. 若手名簿の作成 (重富 恵 ほか)

- '98 10月 オンライン名簿のパスワード化 (ID、password を sg-1 にも流す)
- '99 3月 連絡責任者の更新依頼
- 4月 名簿データ更新依頼
- 5月 印刷代見積り、名簿注文受付 (注文受付を sg-1 にも流す)
- 6月 名簿データの修正
- 7月 印刷、発送予定

会計報告

収入	各研究室より (名簿代)	648 冊 (現在の注文数) * 450 円/冊 =	291,600 円
支出	名簿作成費 (700 部の見積り)		271,950 円
収入 - 支出			19,650 円

名簿代について

今年度は代金先払いとした。✓切までに注文数どおりにお金が振り込まれない可能性や、再発送等の事態を考慮して、赤字にならないように価格に余裕を持たせた。会計報告は若干の変更が予想される。正確な数字は秋の学会にて報告の予定。

議題

yonupa-ml、yonupa-homepage の管理と若手名簿の作成は、全く独立の仕事である。ML・HP 管理は一人で行えるため、学生数の少ない研究室でも引き受けられると思われる。そこで、現在のローテーション制度に入っていない大学に ML・HP 管理校として仕事をしてもらうことにより、より多くの参加大学が三者の運営に関わるようにする。

三者準備校 (東工大、九州大)

活動報告 (東工大)

1. 開催場所：長野県下高井郡木島平村上木島「パノラマランド木島平」
2. 開催期間：7/20(火)~7/26(月)
3. 参加人数：約 370 名
4. 参加費：3,000 円、1泊3食で 5,000 円
5. 主な活動
 - 98年8月：準備グループ発足、会場候補地探し
 - 98年9月：会場下見、会場決定
 - 98年12月：仮契約
 - 99年3月：会場下見、仮契約(再)(ホテルの経営者が変更になった為。)
 - 99年5月：会場下見、本契約、
 - 99年6月：各パート準備校との連絡
 - 99年7月：部屋割り、参加者のメーリングリストの作成、その他準備業務
6. 主な変更点：開催地を昨年まで3年連続して使用してきたホテルアルペンブリック(新潟県妙高高原)から現開催地へ変更した。
その際考慮した主な事柄は、
 - 長野県又は新潟県の上越地方であること。
 - 一泊三食のセット価格が、アルペンブリックの指定した金額(5100円)よりも安くなること。
 - 講義会場がホテル内にとれること。
 - 参加者全員を収容できること。(分宿にする必要がないこと。)

であり、アルペンブリックが持つ長所を失わないような開催地を探した。幸にしてこのような開催地を見つけることが出来たが、上記の条件はかなり厳しいものである為、条件を緩めない限りアルペンブリック、パノラマランド木島平以外の開催地を見つけられる可能性は低いと思われる。

活動報告 (九大)

- 予約受け付け

予約受け付けは昨年東大が作成した自動システムを使った。研究室内にメールサーバー、webサーバーが入った自由に使えるマシンを確保するのが大変だった。また、昨年のスクリプトを解読し、今年度用に書き換えるのに手間がかかった。

実際の受付では、質問やエラー登録の対応に追われた。このうちのほとんどが yonupa-ml、パンフレット、夏の学校ホームページなどを読めば分かることであった。これらの告知内容を良く読んでいただきたい。

- ポスター

ポスターは400部作成し（実際は200部程度で良かったが、値段が同じであったので400部にした）58,380円かかった。

旅費の補助

今年度は素粒子論グループから旅費の補助として45万円が援助された。これを受けて赤字覚悟で昨年よりも大幅に（昨年は22,000円を超える分について補助していたが今年度はそれを17,500円に下げた）補助の額を引き上げ昨年から補助の対象県が4県増えた。

その結果実際に赤字になったが、参加者に対しては割安感を与え、素粒子論グループには全額つきこんでも最大17,500円も旅費を負担しなければならないという三者の財政をアピールすることができたと思う。

7月13日の段階で

参加費 1,107,000円 + SG補助 450,000円 - 旅費補助 1,220,328円 = 336,672円
となっている。これに旅費の補助の振り込み手数料が約3万円程度かかる見込みである。
余ったお金はセンター校に返すことになっている。

二校での開催について

今年度は東工大と九大の二校で三者準備校を受け持ったが、その感想を述べておく。全体として、準備段階では成功であったと思う。その要因としては、

- 準備校メーリングリスト

両校の若手全員と原さん（東大）をメンバーとするメーリングリストを作り、議論はなるべく個人宛ではなくそのメーリングリストを使った。これにより、全員が作業の流れを把握できた。

- 仕事の分担

ホテルに関することは現地に近い東工大が、ポスター、パンフレット、受け付けについては人数の多い九大が、と完全に仕事を分担した。

が挙げられるであろう。今回のように現地に近いところと比較的人数の多いところの共同では成功しやすいと思うが、小規模校をいくつか集めて大規模校と同じ人数になるからというのは危険だという印象を持った。

三者センター校(北海道大)

・99年度 夏の学校 決算見積もり

前年度 繰越金総額:2,192,965

99年度 収入:

項目	金額
基研援助(講師旅費)	500,000
基研援助(講義録印刷費)	200,000
素粒子論グループ援助	450,000
参加費	1,101,000
合計	2,251,000

99年度 支出見積もり:

	三者			素		原			高工ネ	その他	合計	
	準	セン	事 名	準	事	準	セン	パンフ	準	参加者		
講師旅費補助	0	500,000	0	0	0	0	0	0	0	0	500,000	
講義録印刷費	0	0	300,000	0	0	0	0	0	0	0	300,000	
DC abstract 集印刷費	0	30,000	0	0	0	0	0	0	0	0	30,000	
その他印刷費	50,000	0	0	0	0	0	0	24,000	8,500	0	82,500	
遠隔地参加者旅費補助	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,203,092	1,203,092	
ポスター代	60,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	60,000	
下見・契約費	30,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	30,000	
文具費	10,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10,000	
郵送費	70,000	0	4,000	0	0	0	0	0	7,500	0	81,500	
手数料	0	10,000	0	0	0	0	2,000	0	0	0	12,000	
録音関係費	0	0	0	0	23,000	0	0	0	0	0	23,000	
研究会費	0	0	0	0	10,000	0	0	0	0	0	10,000	
諸経費	0	0	0	0	8,000	0	15,000	0	2,000	0	25,000	
通信関係費	0	0	0	0	7,000	1,000	0	0	0	0	8,000	
Review Talker への謝金	0	0	0	0	0	0	30,000	0	0	0	30,000	
Topics 講師への謝金	0	0	0	0	0	0	30,000	0	0	0	30,000	
OHP 関連	0	0	0	0	0	0	0	0	8,000	0	8,000	
合計	220,000	540,000	304,000	0	48,000	1,000	75,000	2,000	24,000	26,000	1,203,092	2,443,092

99年度 決算見積もり

収入合計:2,251,000

支出合計:2,443,092

残額: -192,092

赤字の主な原因は、講義録印刷費が基研の印刷費補助(20万円)を越えたことと、学生旅費補助を素粒子論グループの要請に従って増額したこと(98年度実績+469,072円)です。基研の講師旅費補助(50万円)からReview Talkerへの謝金及びTopics講師への謝金の一部を支出可能ですので、最終的な赤字額は、上記192,092円より少ないことが予想されますが、緊急時補正予算として、超過分192,092円を98年度繰越金(473,174円)より支出することを承認願います。

財源WG(北海道大、新潟大)

新たな財源の獲得については、いまのところ以下のような状況です。

1 報告1(北海道大)

高エネルギー物理学研究者会議、原子核談話会等実験グループに対して資金援助を将来的に募っていく。現状では、今年度、原子核談話会に援助要請の申し込みをしたが、財政難を理由に援助要請自体を断られている。

2 報告2(新潟大)

- 科研費

科研費から夏の学校の財源に補助できるかどうかを調べてみました。可能性としては、

- － 講師の方に科研費等を使って来て頂くようお願いして、研究機関から出る旅費補助を全体の旅費補助に還元する。
- － 大口の科研費を持っている方から、研究発表者の旅費補助を出してもらい同様に還元する。
- － 学振の方の旅費で院生を一緒に連れて来てもらう。

等が考えられます。

- 若手名簿の販売

- 開催地

準備校の努力により一泊の宿泊費は 5000 円になっていますが、さらに低予算開催をすることによって、ドクター層を含む参加者増、旅費補助の充実等が可能になると思われます。そこで公立の宿泊施設、宿泊研修施設の利用することを提案します。例えば国立青年の家などを利用することで、宿泊費、食費込で一泊 2000 円程度で行えます。

- 天文・天体物理若手の場合

三者事務局 (新潟大)

1 活動報告、決算報告

1.1 98 年度事務局 (阪大)

[活動報告]

5 月 講義録の収集・編集・印刷所への郵送

7 月 夏の学校において講義録の配布・講師の方や研究所へ講義録を郵送

今回印刷費の不足により講義録は 150 部しか印刷できませんでした。そのため、今年は基本的に各研究室に 1 部とします。

[決算報告]

今回の講義録作成費 約 290,000 円

(基研からの印刷費援助 200,000 円)

支出

講義録郵送料	850 円
コピー費	1,890 円
計	2,740 円

(更に講師の方や研究所等へ講義録を郵送するために出費の予定)

1.2 99 年度事務局 (新潟大)

[活動報告]

3 月 講師への予稿依頼の要請

6 月 予稿を各パートの Home Page に掲載するよう依頼

[決算報告]

予算

三者センターより 3,000 円

支出

なし

2 講義録作成について

2.1 今年度の講義録作成

先の活動報告にあるように、98年度三者事務局(阪大)によって作成された。RCNP から補助は得られず、基研からの印刷費援助を全て用いた。それでも、150部作るのに約30万かかり、追加予算が必要となった。

2.2 来年度の講義録作成

1研究室1部を最低限としても150部より減らすことはできない。予算が不足した場合に、

- 繰越金を使う
- 参加費を増やす
- その他

を明確にしたい。

2.3 再来年度以降の講義録作成

例えば、98年度夏の学校の講義録は98年度三者事務局が作成しているように、事務局の仕事は2年ごしとなっている。それに対し、予稿集の印刷廃止・電子配布化により、99年度三者事務局5月～6月にかけて余裕ができた。したがって、来年度以降の講義録作成については、

- 2000年度の講義録は2001年度の事務局が作成する

ことで、事務局の仕事を1年で終了する形に持っていくことを提案します。(99年度の講義録は99年度事務局が作成する。移行段階として、2000年度の事務局は講義録作成がない。)

3 三者の役職について

現時点での三者の役職は、事務局、センター、準備校、名簿校の四役となっている。名簿校の提案をふまえ、新たに役職を次のようにしたい。

- 事務局
- センター
- 準備校
- 名簿校
- ML・HP 管理校

また、次の WG(Working Group) を置くことを提案する。

- PD 問題 WG
- 財源 WG

3.1 三者四役ローテーション

- 新たなローテーション校

2001 年度より現在三者四役のローテーションに入っていない大学にも四役の仕事を積極的にやって頂こうということが、昨年夏の学校総会において決まりました。我々事務局としては、ドクターのある大学には原則的に四役のローテーションに加わって頂くことを提案します。但しセンターは三者(素粒子、原子核、高エネ)がそろっている大学にやってもらうことが望ましい。

そこで今回は以下の大学に新たにローテーションに加わって頂きたいと思えます；

お茶の水女子、茨城、千葉、早稲田、大阪市立、奈良女子、日本、立教

- 2001 年度の役職校

	事務局	センター	準備校	名簿校
1991年度	?	?	東北大	
1992年度	?	?	新潟大・九大	
1993年度	東北大	筑波大	金沢大	
1994年度	東工大	東大	大阪大	
1995年度	北大	九大	京大	
1996年度	広島大	新潟大	名大	
1997年度	都立大	金沢大	筑波大	神戸大・広島大
1998年度	大阪大	東北大	東大	京大
1999年度	新潟大	北大	東工大・九大	名大
2000年度	筑波大	都立大	広島大	金沢大
2001年度			東北大	

新潟大学 飯島 洋太 iijima@muse.hep.sc.niigata-u.ac.jp

4 PD 問題

- PD 問題とは?(ポスドクの現状)

近年大学院性, ポスドク(学振, 研究生, 研修生など博士の学位はとったが定職に就いていない人)の数は急増している。一方, アカデミックな職の数はむしろ減少の傾向にあり, その結果多くのポストクが就職できない状況にある。また大半のポストクは収入が無いばかりではなく, 授業料, 入学料などを納めなくてはならない。この他にもまだ, ポスドクが研究を続けていく上での多くの困難が存在している。この様にポストクの現状には広く, 深い問題があり, 早急に改善されなければならない。

- 解決策?

この問題は本来解決できる問題であるのかどうかも良く分からない。このままでは何がいけないのか, 何が不満なのか, それがどうあるべきなのかということをもみんな(ポスドク, 院生, スタッフ, その他)で考えていかななくてはならないであろう。

- それぞれの活動

1. ポスドク(詳しくはホームページを参照)

- ポスドクフォーラムを発足

現在は素粒子論グループの学生会員なら誰でも自由に入会脱会できる。今後は?(分野や身分の枠を外すべき?)

- (今までの) 活動内容

- (a) ポスドク実態調査

- (b) ポスドク制度や就職問題への対策の提言

2. スタッフ

- 素粒子論グループ内にワーキンググループを設置 (SPWG)
- 日本育英会, 学術振興会, 文部省などとの会見